



TITLE:

日本語複合動詞における後項動詞  
とロシア語動詞接頭辞との対応関  
係について一語彙的複合動詞を構  
成する「～こむ」「～でる」「  
～だす」「～たつ」「～たてる」  
の場合一( Abstract\_要旨 )

AUTHOR(S):

ABRAHIMOVICH, Yuliya

---

CITATION:

ABRAHIMOVICH, Yuliya. 日本語複合動詞における後項動詞とロシア語動詞接頭辞との対応関係について一語彙的複合動詞を構成する「～こむ」「～でる」「～だす」「～たつ」「～たてる」の場合一. 京都大学, 2018, 博士(人間・環境学)

ISSUE DATE:

2018-03-26

URL:

<https://doi.org/10.14989/doctor.k21170>

RIGHT:

許諾条件により本文は2018-06-01に公開

( 続紙 1 )

京都大学	博士（ 人間・環境学 ）	氏名	ABRAHIMOVICH Yuliya（アブラギモヴィチ ユーリヤ）
論文題目	日本語複合動詞における後項動詞とロシア語動詞接頭辞との対応関係について ―語彙的複合動詞を構成する「～こむ」「～でる」「～だす」「～たつ」「～たてる」の場合―		
(論文内容の要旨)			
<p>本論文は日本語の複合動詞における後項動詞とロシア語の動詞接頭辞との対応の比較から日本語の後項動詞の訳語として使用される傾向にあるロシア語の動詞接頭辞を取り上げ、それぞれの意味・機能に関する異同を明らかにすることによってロシア語を母語とする日本語学習者の日本語複合動詞の理解に役立つ体系的な説明を伴う手引書を作成することを目的とする両言語の対照言語学的研究である。</p> <p>本論文は第1章において、上記の目的を達成するための方法論として、現代日本語の「動詞＋動詞」型複合語における後項動詞のうち、最も生産性が高く、意味的に対極的であり、さらに語彙的複合動詞という点において共通する「～こむ」「～でる」「～だす」「～たつ」「～たてる」に焦点を当て、国立国語研究所の『複合動詞レキシコン』によってこれらの後項動詞をすべて収集し、その意味を『日本語大辞典』によって調べ、さらに、それらに対応するロシア語の動詞接頭辞を特定し、訳語として使用されたロシア語の動詞接頭辞を「～こむ」「～でる」「～だす」「～たつ」「～たてる」ごとに意味・機能に関して分析し明らかにするという方法論を提示している。</p> <p>第2章では、ロシア語の動詞接頭辞に関する先行研究が取り上げられ、1980年にソヴィエト科学アカデミーから刊行された『ロシア語文法（RG-80）』を始め、ロシア語に関する主要な文献における動詞接頭辞の種類、および動詞接頭辞の意味・機能に関する諸説が紹介され、その種類に関しては、どこまでを異形態と認めるかについて研究者によって見解は様々であり、また、ロシア語の動詞接頭辞が有する意味・機能の解釈と密接な係りを持つ動作様態の概念、動作様態の種類および分類方法は研究者により異なり、統一された見解が未だに存在せず、従って本論文でロシア語の接頭辞の種類およびその意味・機能について言及する場合、接頭辞の種類を比較的多く記載し、なおかつそれぞれの接頭辞の意味・機能に関して詳細な説明を与えている RG-80 の記述に依拠する旨が述べられている。</p> <p>第3章では、ロシア語圏の国々で刊行された日本語の教科書・参考書や日本語文法に関する学術書等において日本語の複合動詞、特に「動詞＋動詞」型の複合動詞がどのように扱われているかについて、Golovnin（1986）を始めとする代表的な日本語研究者達の説が紹介され、その日本語教科書・文法書・研究書の中で「動詞＋動詞」型の複合動詞を網羅的かつ体系的に説明したものは一つも存在せず、このことが、ロシア語母語話者が複合動詞を学習する際の障壁の一つとなっているという主張を展開している。</p>			

第4章では、日本語の「動詞＋動詞」型複合動詞が、1) 複合動詞の結合条件及び分類、2) 個々の複合動詞後項の意味、3) 他の言語との対照、という3つの観点において、日本における従来の研究によって如何に扱われてきたのかを、11名の代表的研究者の説を挙げて論じている。また、その中でも、本論文が複合動詞の分類に関して影山(1993)および姫野(1999)の統語的複合動詞と語彙的複合動詞という分類を採用した主な理由として、本論文では日本語の複合動詞を収集する際、使用した『複合動詞レキシコン』は影山が提唱した理論が反映されたデータベースであり、従って、『複合動詞レキシコン』を使用して複合動詞の収集を行う場合は、影山の理論に従うのが合理的であるという点を挙げている。

第5章では日本語の語彙的複合動詞を構成する後項動詞のうち、「～こむ」「～でる」「～だす」「～たつ」「～たてる」の5種類を対象とし、それらの後項動詞の訳語に使用されるロシア語の接頭辞付加動詞に関する統計的調査を行い、「～こむ」「～でる」「～だす」「～たつ」「～たてる」の訳語として使用されるロシア語の動詞接頭辞を特定する作業を行っている。

第6章は結論として、ロシア語の動詞接頭辞と上記の後項動詞が対応する意味的要因について、特に後項動詞がどの意味タイプである場合にどの接頭辞が使用されるのかという観点から考察し、その結果として、1.「～こむ」(内部移動、程度進行)、2.「～でる」(外部移動)、3.「～だす」(外部移動、顕在化)、4.「～たつ」(直立(出現)、出発、感情の発露・高揚、生起・昂進)、5.「～たてる」(直立(確立)、顕彰・拔擢、構築・達成、強調・旺盛)に対して統計的にそれぞれロシア語の1.V-およびZA-, 2.VY-, 3.VY-, 4.RAZ-およびZA-, 5.VY-およびRAZ-が対応することを明らかにしている。

(論文審査の結果の要旨)

本論文は、現代日本語の「動詞＋動詞」型複合語における後項動詞のうち、最も生産性が高く、意味的に対極的であり、さらに語彙的複合動詞という点において共通する「～こむ」「～でる」「～だす」「～たつ」「～たてる」に関して、ロシア語の動詞接頭辞との対応の比較から、これらの後項動詞の訳語として用いられる頻度の高いロシア語の動詞接頭辞を統計的に突き止め、それに基づいて両言語における後項動詞と接頭辞の意味および機能を明らかにすることを主眼とし、さらにロシア語を母語とする日本語学習者の日本語複合動詞に関する理解の一助となる体系的な説明を伴う手引書を作成することも視野に入れた対照言語学的考察である。

本論文の学問的貢献として、1.「～こむ」、2.「～でる」、3.「～だす」、4.「～たつ」、5.「～たてる」にそれぞれロシア語の、1.V-およびZA-、2.VY-、3.VY-、4.RAZ-およびZA-、5.VY-およびRAZ-、が対応することを明らかにし、その対応関係を統計的手法によって明確な数値で示したことが挙げられる。

さらに、姫野(1999)による、1.「～こむ」(内部移動、程度進行)、2.「～でる」(外部移動)、3.「～だす」(外部移動、顕在化)、4.「～たつ」(直立(出現)、出発、感情の発露・高揚、生起・昂進)、5.「～たてる」(直立(確立)、顕彰・拔擢、構築・達成、強調・旺盛)という後項動詞の意味分類に基づき、ロシア語の接頭辞が日本語のどの意義特徴に対応するのかという問題に取り組み、その結果、1.「～こむ」とV-およびZA-の対応では、V-とZA-ともに「内部移動」の意味を持つ複合動詞の訳語で使用されるケースが圧倒的に多く、数値的には「～こむ」複合動詞の「程度進行」よりも「内部移動」と対応する場合がおおよそ8倍を示すこと、2.「～でる」とVY-の対応では、「～でる」には「外部移動」の意味しかないため、「外部移動」とVY-が対応することは自明であること、3.「～だす」とVY-の対応では、「～だす」には「外部移動」と「顕在化」の意味があるが、「外部移動」の意味の訳語にVY-付加動詞が使用されるケースが「顕在化」のおおよそ3倍であること、4.「～たつ」とRAZ-およびZA-の対応では、RAZ-付加動詞とZA-付加動詞が共に使用されるのは「感情の発露・高揚」と「生起・昂進」であり、「出発」の意味にはRAZ-、ZA-ともに使用されないこと、5.「～たてる」とVY-およびRAZ-の対応では、VY-、RAZ-ともに「強調・旺盛」の意味の訳語で使用されるケースが最も多く、「直立(確立)」にはVY-、RAZ-ともに対応しないことを明らかにしたことも本論文の大きな学問的貢献である。

以上のように、本論文は日本語の複合動詞における後項動詞とロシア語の動詞接頭辞の対応関係を意義特徴の観点から統計的に極めて正確に示すことに成功し

ており、また、この問題に関する数値化は従来なかった成果であり、これらの点において本論文の独創性を評価することができる。

よって、本論文は博士（人間・環境学）の学位論文として価値あるものと認める。また、平成30年1月15日、論文内容とそれに関連した事項について試問を行った結果、合格と認めた。

要旨公表可能日： \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日以降